

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 6月 30日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502199		
法人名	北海ケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム 北海ハウス		
所在地	札幌市白石区北郷7条3丁目8番12号 (電話) 011-871-7000		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年6月25日	評価確定日	平成21年7月6日

【情報提供票より】 (平成21年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 10月 1日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31人	常勤	22人, 非常勤9人, 常勤換算21.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	3階建ての	1～3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000～39,000 円	その他の経費(月額)	高熱水費:18,000円	
敷金	有() 円	無	暖房費(11-3月):8,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(70,000～78,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 2年	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(6月 1日現在)

利用者人数	26名	男性	3名	女性	23名
要介護1	2名	要介護2	9名		
要介護3	8名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.2歳	最低	66歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル 整形外科北新病院 札幌トイ病院 さくら歯科クリニック
---------	---------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム 北海ハウス」は、運営者が家族の体験から福祉に関心を持ち、平成15年に開設した3ユニットのホームである。開設時から現場に入り、認知症をもつ高齢者が穏やかに過ごせる環境づくりに取り組んできた。5年が経過し、運営者と管理者は職員の育成を重要視し、毎月の民間介護連絡協議会での研修、外部研修、さらに事業所内での学びを充実させる方向で進めている。利用者は外食、年間行事の他に、建物の広大な屋上を活用し、バーベキュー、菜園、花づくり、車椅子での外気浴などを楽しんでいる。管理者と職員は笑顔を絶やさず、一人ひとりが穏やかに過ごせるように支えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回に実施した外部評価の課題は、各項目の内容を真摯に受け止め改善を進めている。職員研修の計画、玄関施錠の工夫、夜間を想定した避難訓練などの検討を重ねている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の作成は、各フロアの勤務者が話し合いそれぞれに記入したものを管理者が確認しまとめた。外部評価は外からの視点で業務を見直す機会と捉えている。次年度の自己評価には、評価表を事前に渡し記入してもらい、全職員での取り組みを考えている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	昨年は運営推進会議を4回開催し、定期的な開催に向けて努力している。主に事業所の活動報告になっているが、町内会祭りへの参加やボランティアの導入など参加者の意見を積極的に取り入れている。今後は、事業所屋上での昼食会を兼ねた会議を持ち、家族への会議録の送付や参加への工夫などを考えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎月、各ユニット便りを発行し、行事の写真を中心に暮らしの状況を報告している。家族の来訪時には、管理者、リーダー的な職員が対応し、苦情など改善が必要な時は各ユニット会議で対応を話し合い迅速に解決している。来訪時には笑顔で話しかけ意見を言い易いように心がけているが、何気ない意見をも吸い上げるような工夫も考えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会祭りで事業所の玄関前を通る「子供みこし」を応援し、七夕には子供の訪問を喜ぶなど行事を通しての交流を楽しんでいる。小学校の学習発表会に招かれたり、中学生の職業体験を受け入れたりしている。町内会の役員でもある代表は子供との交流を積極的に働きかけている。現在、保育園児との交流を図るため企画をしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念は詳細な文章の上段に「笑顔で明るく やさしく」と、分かりやすい言葉でまとめられている。その中に「地域と共に歩むホーム」を目指した地域福祉への貢献を表明している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの玄関に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和し、意識できるように取り組んでいる。職員の採用時には理念を説明し、会議の中では利用者の気持ちに沿った対応になっているかを確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会祭りで事業所の玄関前を通る「子供みこし」を応援し、七夕には子供の訪問を喜ぶなど行事を通しての交流を楽しんでいる。小学校の学習発表会に招かれたり、中学生の職業体験を受け入れたりしている。町内会の役員でもある代表は子供との交流を積極的に働きかけている。	○	保育園児との交流を図るため、保育所と話し合い企画中とのことなので、その継続的な取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の作成は、各フロアの勤務者が話し合いそれぞれに記入したものを管理者が確認しまとめた。外部評価は外からの視点で業務を見直す機会と捉えている。評価の結果と一緒に自己評価についても職員と話し合う予定である。	○	次年度の自己評価には、事前に評価表を全職員に渡し記入できるような準備を考えているので、項目の内容を吟味することで日々のケアがより深まることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年は運営推進会議を4回開催し、定期的な開催に向けて努力している。主に事業所の活動報告になっているが、町内会祭りへの参加やボランティアの導入など参加者の意見を積極的に取り入れている。今後は、事業所屋上での昼食会を兼ねた会議をもち、家族への会議録の送付や参加への工夫などを考えている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	札幌市担当者とは事務的な相談や届け出などで出向く程度であるが、管理者会議には参加している。区の担当者には利用者の経済的な軽減などを相談をしている。制度的な制限があるとのことで、双方での積極的な取り組みまでには至っていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の各ユニット便りで、行事の写真を載せて暮らしぶりを報告している。便りには新職員の挨拶、異動などを載せている。退職については事情に応じて伝える方向で考えている。家族の来訪時には、管理者、リーダー的な職員が対応し、健康や様子を報告している。金銭明細書は毎月送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情など改善が必要な時は各ユニット会議で対応を話し合い迅速に解決している。会議録や連絡帳で全職員で内容を確認している。来訪時には笑顔で話しかけ意見を言い易いように心がけているが、何気ない意見をも吸い上げるような工夫も考えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者との馴染みの関係に留意しており、職員の定着率の難しい現状でケアが継続できるように努力している。異動はできるだけ抑えている。職員の交代時には、理解できる利用者には挨拶をし、他の職員が居室を訪問し、関わりを多く持つようにして精神的な面に配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は外部研修の情報を流し、職員の希望に沿って参加させている。費用は会社負担としている。認知症介護の実践者研修、介護スタッフのレベルアップ研修、認知症周辺症状などの研修に参加しているが全員の参加までに至っていない。それらの研修報告を内部研修に充てている。	○	職員が段階的に学ぶための年間計画を検討中とのことなので、その取り組みに期待したい。また、定期的な勉強会も考えているので、職員間で学ぶ環境作りにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市、区のグループホーム管理者会議の他に、民間法人の「全国介護事業者協議会」に入会し、研修会、交流会に積極的に参加している。職員は事例検討、制度的なこと、身体拘束などを学び、他事業所の職員とも交流している。今後は同区の事業所見学も視野に入れ交流を図りたいと考えている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には見学を勧めている。入院中も外出の際に来訪し、安心して新しい生活が始められるように話し合っている。入居後は関わりを多くし、できることを他利用者と一緒に行う中で環境に慣れてもらうように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は一緒に味付けの順番、山菜の下ごしらえなどを行う中で、料理のコツなどを利用者から教わっている。人生の長い経験もあり、利用者間で助け合う姿勢に学ぶことがある。午後にレクリエーションやテレビを観て共にゆったりと過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、入浴時、居室掃除時など会話の中で本人の思いを聞くようにしている。それらの情報を職員間で交換し、可能なことは介護計画にも反映させている。意思表示が難しい人には、表情や身体の動きに注意して確認しながら意向を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規の介護計画は、利用者本人との会話から思いを汲み取り、1～2週間経過後に家族の思いや職員からの情報を基に計画作成者が暫定的な介護計画を作成し、全職員で確認している。介護計画は、家族に説明すると共に利用者の状況に応じて本人にも説明をしている。暫定計画は、1ヶ月程で見直しを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月会議を行い3ヶ月毎に見直しを行っている。入退院による体調変化や認知症の状況変化、転倒などにより歩行が困難になるなどの状況に応じて利用者の現状に応じた介護計画を作成している。介護計画の見直し後は家族に報告して説明を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて、買い物や外食、受診の送迎などを行っている。医療連携体制を活かし、24時間提携医療機関に利用者の体調変化の相談を行い、指示を受け、適切な診療が受けられるようになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に家族と本人に提携医療機関の説明を行い、特に希望がなければ事業所の提携病院に受診を変更している。専門的な病院は利用開始後も継続し、受診時は体調記録や利用者の様子を書いて家族に持参してもらい適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応、看取りに介護に関する考え方および対応指針」に基づき、経口摂取が出来なくなったり、常時医療行為が必要となるなどの症状、精神疾患が発症するなど事業所での生活が困難になった場合について、事業所の対応を入居時に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員に対して利用者が自分で物事を選択出来るような話しかけ方をするように指導している。排泄時はそっとトイレに案内するなど利用者のプライバシーに配慮している。記録などの個人情報は事務スペースのロッカーに鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や健康チェックの時間など基本的な日課は決まっているが、利用者の状況により食事時間を変更するなど柔軟に対応している。外食や買い物に出かけたり、居室での読書や居間で塗り絵を楽しむなどそれぞれの利用者の希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共にもやしの根取りや野菜の皮むき、食材を切る、揚げ物をするなどの食事の準備、食器洗いや食器拭きの後片づけなどそれぞれの利用者に応じて行っている。献立は利用者と一緒に考え、食材の買い物も利用者と共に出かけている。職員も同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望で入浴出来るよう毎日可能となっている。利用者の状況に応じて夜間入浴も行っている。入浴拒否をする利用者に対しては、以前に入浴した時のタイミングなど職員間で話し合い、スムーズに入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	植木の水やりや草取り、食材の買い物、風呂掃除などそれぞれの利用者に応じて役割を持って生活出来るように支援している。テレビを見たり、塗り絵や漢字ドリルなどをしたり、散歩、外食など利用者に合わせて楽しみ事や気晴らしが出来るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に合わせて、週1～2回は近くの公園に散歩に出かけたり、屋上で外気浴を行っている。冬季は、外食や買い物に出かけている。	○	屋上を利用しての外気浴や近隣への散歩などそれぞれの利用者の体調に合わせて声かけをして、積極的に戸外に出かけられるように取り組みを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全面に配慮して正面玄関と1階のユニット玄関を施錠している。利用者が外出した時は後ろから職員が付いて行き、タイミングを見て声をかけるなど利用者の安全面に配慮している。	○	職員間で利用者の安全面に対する配慮方法などを話し合う事で、ユニット玄関の鍵をかけないような取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年度は、同法人のデイサービスと合同で消化器の使い方や避難誘導などの自主訓練を行っている。災害時の連絡網やマニュアルを作成している。	○	消防署の協力を得て夜間を想定しての避難訓練を行うと共に、運営推進会議で災害対策を議題に取り上げ災害時に近隣の協力を得られるような取り組みを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に利用者全ての水分摂取量と食事摂取量を記録している。水分摂取量が少ない利用者にはゼリーなどで水分を摂取出来るようにしたり、食事摂取量が少ない時は利用者の好きな物を食べてもらうなどの工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者には決まった落ち着く場所があるため、ソファなどはそのままに居心地良く過ごせるように配慮している。台所や事務スペースは対面式になっており、常に利用者の表情を見たり、会話を交わしながら共に生活が出来るようになっていく。高さを調節出来るトイレもあり利用者が使いやすいように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口にはガラスのショーケースがあり、それぞれの利用者が人形や好みの物を飾り、自分の部屋が認識出来るような工夫がなされている。居室には、テレビやタンス、椅子など好みの物が持ち込まれており、本人が居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。